

地域課題の抽出と住民による 解決に向けての合意形成づくり

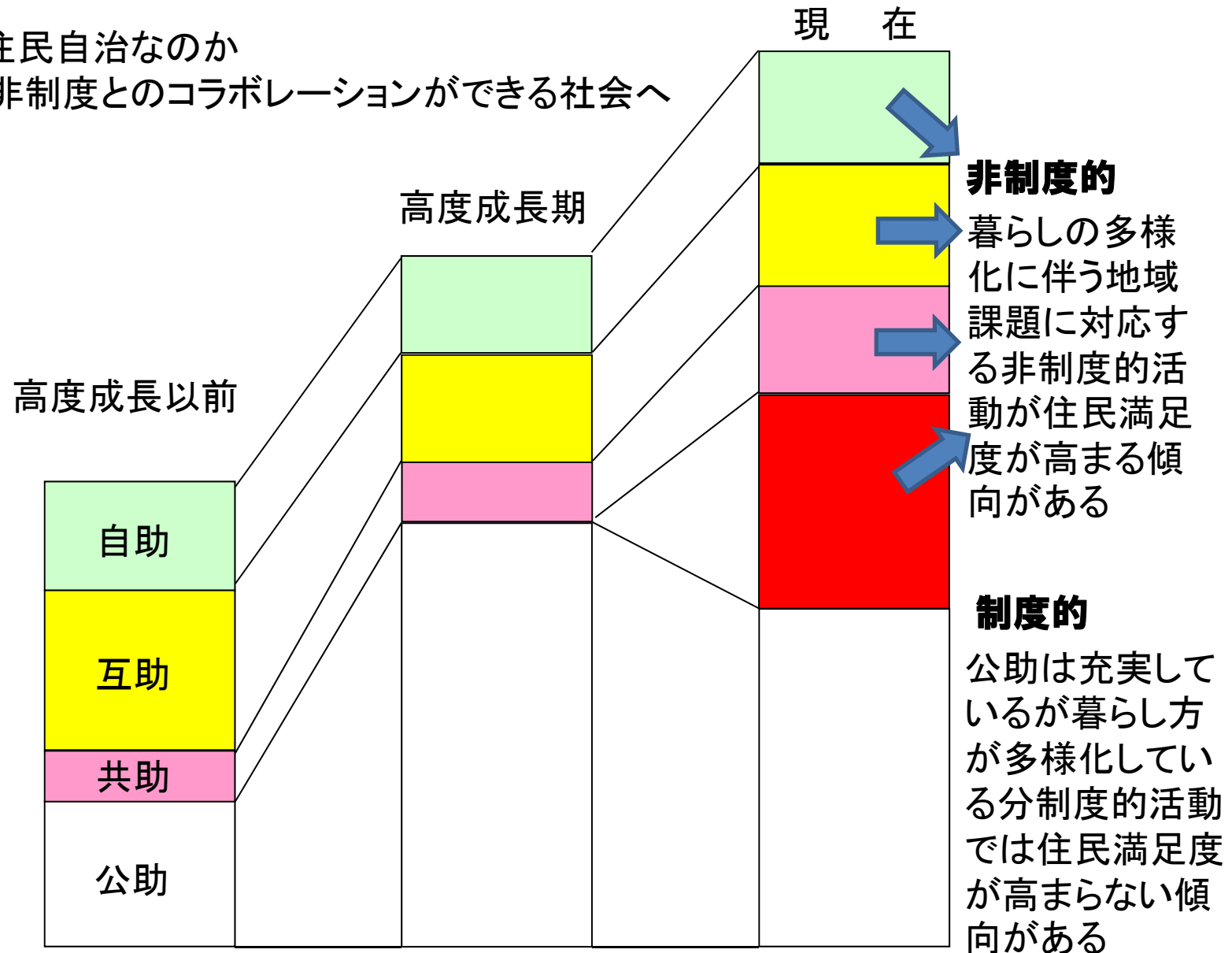
愛媛大学社会連携推進機構 地域連携コーディネーター
教授(特定教員) 前田 眞

本日の内容

1. これからの目指すべき地域社会
2. 住民自治の実現に向けた住民のあり方
3. ソーシャルキャピタルの重要性
4. 地域の課題
5. 地域課題を科学する
6. 地域の合意形成、担い手づくりに向けて
7. 企画づくりのポイント

これから目指すべき地域社会のあり方

なぜ、住民自治なのか
制度と非制度とのコラボレーションができる社会へ



これからの暮らし方は「住民自治」で
自治すること

「暮らしの基本」と「地域の魅力づくり」

安全・安心の維持

文化・伝統をどう残す

経済的な自立

自治する力

決める力

行動・実践する力

育てる力

住民自治の実現に向けた住民のあり方

暮らしにおける住民自治の実現

- 参加の場づくりへ

トップダウン

指導、教える、話す
自己主張



ボトムアップ

支援、引き出し、
待つ、傾聴、
多様性の尊重

参加の場づくりへ

トップダウン 先生、有識者、ワンマン、強力なリーダー



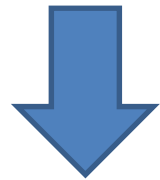
ボトムアップ 支援者、コーディネーター、ファシリテーター

住民(暮らし)自治の結果

当事者意識が高まる

他人事

遠い出来事、対岸の
火事、頭でわかってても
体でわかっていない



自分事

自己決定、責任ある
長期的なかかわり、
頭でわかり体でわかる

創出される地域を元気にする住民活動

地域の課題解決に向けて、一人ひとりに居場所と出番があり、役に立つ幸せを大切にすること

→この世の中に役に立たない人はいない

→一人ひとりが支え合い、課題解決に立ち向かう

→少子高齢社会の課題解決に資する人や地域のきずな(コミュニティ)をつくる

ソーシャルキャピタルは重要 (社会関係資本、人間関係資本)

- つながりのある社会とつながりが脆弱な社会との差は「生活課題」の発生にある。
- 地域における新たな支え合いを創出する。



ご近所の底力

地域の課題(概観)

- 土地の状況 : 空き地、耕作放棄地、地区外
居住者所有の農地・山林、危険
箇所等の存在
- 施設の状況 : 医療施設、学校、集会所、公民
館などの公共的施設の余剰
商店、農協などの生活必需施設
空き家、廃校舎などの増加
観光資源となり得るような建物
等の未発掘・未開発

- 交通の状況 : 近隣の道路、路線バス、鉄道などの分布状況、停留所・駅までの遠距離
- 自然の状況 : 自然景観、希少動植物の生息地域等の保全
- 伝統文化の状況 : 伝統行事、史跡の所在等
- 住民の状況 : 技能を持った(地域で活躍できる)人の未発掘
独居老人、週末居住者、移住者への支援状況
買物先、子育て等の生活支援策の未整備、インターネット・携帯電話の通信状況の不十分さ、等々

＜地域の集落活動状況＞

○資源管理面：農林地や地域固有の景観、文化等の地域資源を維持・管理する機能の低下

○生活扶助面：地域が安全に、円滑に運営されるために、地域住民同士が相互に扶助し合いながら生活の維持・向上を図る機能の低下

例：冠婚葬祭、地域の会合、福祉活動、消防防災活動等

○生産補完面：農林漁業等、地域の生産活動を地域住民が相互扶助によって補完し合いながら、生産活動の維持・向上を図る機能

例：農作業、草刈り、清掃活動、道路保全等

<住民のエンパワーメント>

○地域の住みやすさ、住みにくさへの対応

○地域や集落の活動への参加状況

○参加・協力できる活動、特技等

当該地域の課題を把握する方法

地域を知るための手段は数多くあります。

取組の状況に応じて複数の手法を織り交ぜて活用する場合もあります。

ここでは、地域の現状や課題を把握する段階からより多くの住民が参加しやすく楽しんで参加できるような工夫がポイントになります。

その後の計画づくりや解決に向けた活動のためには多くの住民からアイデアを引き出すとともに、否定的な意見だけでなく、前向きな意見・発想ができるような環境づくりも重要です。

そのためには、以下のような手法があります

①行政（市町等）の資料を活用する

②住民アンケート

話合いに参加できない人も意見を述べる
ことができ、また、人前では言いにくいことも率
直に回答しやすいという特徴があります。

アンケートの趣旨や回答方法を理解してもら
うため、事前に地域への説明会を開催するこ
とが有効です。

補足的に、アンケート後に、地域の皆さんに
聞き取り調査をすることもあります。

③ワークショップ（感・共有を深めるための作業）

テーブルを囲んでの話し合い（KJ法等）、現地を歩きながらの点検、特定のテーマを専門的に掘り下げるなど、多様な方法があります。複数人で同時に作業するため、結果の共有もしやすいなどの特徴があります。

一つのグループは、7～8人ぐらいが話しやすい人数です。

ここでは、住民活動につながりやすい手法として、ワークショップについて深めていきます。

- ・参加者の年代区分は、年代ごとの地域活動への関わり方を目安にするなど地域の実情に応じて工夫します。

例 19歳以下（若者）、20～60代（活動の中心）、70歳以上など）

- ・男女別、集落別などのグループ別に対話や地域点検などを行えば、課題の共有、アイディア出しなどが迅速かつ効率的に進みます。

地域を違った視点で見るため、移住者や地域外の人に参加してもらうことも有効です。

- 話し合いの場合は、人前で意見を言い慣れていない人の意見も引き出せるよう、ファシリテーター（進行役）の役割が重要です。
- 地区点検などで現地を歩く場合は、地域外の人と一緒に歩くなど、日常と違った視点で歩くことが効果的です。
- 地区点検と同時に具体的な活動アイディアを導き出すこともできます。
- 調査した内容を地図に書き込んでいくことも地区の状況を把握するのに有効です。

＜現地での聞き取り＞

住民への直接聞き取りをすると、よりきめ細かく住民の方の生の意見を把握することが可能です。

一方でかなりの時間と労力がかかることも予想されることから、地域の規模等を考え合わせて、必要に応じて実施します。



そうやって把握された現状を分析し、活動に結びつけていくプロセスについて説明します。

地域を科学する

～低次から高次へ交互作用しながら段階的に進んでいくこと～
井尻正二「科学論」から

体験的方法

- 日常の生活や社会生活における体験を通じて、地域を自身で感性的に経験し、地域の印象を自分自身に焼き付けること
- 先入観なしで繰り返すことが大事
- そのために感性を磨くことが大事
- ではどうすればいいのか？

地域を科学するための方法

～低次から高次へ相互作用しながら段階的に進んでいくこと～

記載的方法

- 体験的方法による地域の印象について観察を行う
- 主観的な印象が観察によって客観的な概念に統合されること
- この場合、印象の差異性に注目して、特異な現象に注目すること
- 非統一的な、ばらばらな印象の理解になる
- 言語、記号、数字、図などで現す。

地域を科学するための方法

～低次から高次へ交互作用しながら段階的に進んでいくこと～

分類的方法

- 体験的方法によってもたらされた地域の印象について、同質性に注目して秩序だった体系に統合すること
- 巨視的(大区分)な観点から微視的(小区分)な観点への順になる

地域を科学するための方法

～低次から高次へ相互作用しながら段階的に進んでいくこと～

論理的方法

- 今まで抽出された地域の印象やそこにあるもの(不確定なもの)について、普遍的な、必然的な、本質的な関係を組み立てていくこと
- そのために、他の地域等での実践例から求められた仮説や法則が当てはまるかどうかを検証する。(演繹的方法)

地域を科学するための方法

～低次から高次へ交互作用しながら段階的に進んでいくこと～

理論的方法

- 今まで抽出された地域の印象や素材について、論理的に導きだされた関係について、そこで起きていることの因果関係を明らかにすること
- そのために、地域での事象を積み重ね、仮説や法則を作り上げていく。(帰納的方法)

地域を科学するための方法

～低次から高次へ相互作用しながら段階的に進んでいくこと～

実験的方法

- 現実の地域にごちゃごちゃ起こっていることに何らかの人為的な操作や手段を実践することによって新しいことを生み出すこと
- それらを評価し、未来に向けて新しい仮説や法則を生み出すこと

地域を科学するための方法

～低次から高次へ相互作用しながら段階的に進んでいくこと～

条件的方法

→今まで抽出された地域の印象や素材について、普遍的な、必然的な、本質的な関係を明らかにすることから一歩進んで、将来に向けた地域のあり方についての条件を設定すること。

地域を科学するための方法

～低次から高次へ相互作用しながら段階的に進んでいくこと～

グループ化方法（全体を通じて）

- それぞれの立場目的の明確化
- 個人差を重要視する
- 地域の印象、素材を対象にすること
- みんなが共有できる仕組みを持つ
- 地域のためにという共通認識を持つこと

地域で調査した現状を解決していくためには、現象を起こしている要因についての実体(課題)や本質的な要因を見抜いて、次の活動を創出していく必要がある。

- ①地域、集落、世帯レベルに分類
- ②住民(自分、自分達)で対応できること、他団体の協力を必要とすることに分類・整理
- ③地域や集落等の機能再編・強化計画づくりの段階で、住民に取組活動主体となってもらえるようにしていくことが重要

課題解決に向けた
地域の合意形成、担い手づくりに向けて
(会議道・ワークショップ)



会議（ワークショップ）とは

- 意思決定に有効な会議を、行う者・集う者で共同作業的につくりあげること
- 会議の最も重要な目的は、次の行動（役割分担・工程）への意思決定をすること
- 集まって話すことを目的としないように留意する必要がある

実践に向けてリーダーとして

- 方向性を示す
 - 問題の明確化
- 組織を整える(メンバー構成を考える)
 - 的確な人員配置
 - 意思決定プロセスの整理
- メンバーのベクトル共有(目標の共有)
 - 解決に向けての多様なアプローチの構築
 - 複眼的思考(ターゲット、自分、組織)
- メンバーのエンパワーメント(やる気起こし)
 - 受け止めることと受け入れることは違う
 - 刺激を与える

実践に向けてメンバーとして

- 会議の目的と性格をはっきりと理解する。
- 事前にしっかりと資料を読み込んでから参加する。
- 自分の考えをはっきりさせ、まとめておく。
- 問題点をピックアップして、整理しておく。
- 必ず発言する。
- 発言は結論から述べ、短く、論理的に、冷静に。

参加者のこころ構え

- 相手の意見をよく聞く
- 反応する前によく考える
- 天下国家だけを語らない
- 適切で平易な表現
- 意思をはっきりさせる
(ご意見番で終始しない)
- 合意の意思表示(儀式が必要)

話し合いの技法(1)

- **ブレインストーミング**(発散技法)
 - テーマについて思いつくまま自由に考えられることを、すべて出し合うまで話し合うこと
 - くだらないことでも話せる雰囲気づくりが大切

- 他人の発言に対して批判しない
- 自由奔放にアイデアや意見を出し合う
- 意見、アイデアは質より量を求める
- 出てきた意見やアイデアを結合してよりよいものにする

話し合いの技法(2)

- **KJ法(カードを使った意見の収束技法)**
 - 参加者の頭の中にあるぼんやりしたイメージを図式的に構造化する
 - 参加者全員に課題に対する共通認識を作り出す
 - 感情的な議論や先入観、思い込みを排除し、あいまいな部分を明確にしていく

- 1枚のカードにはひとつの内容を書く
- 誰が呼んでもわかるように具体的に書く
- カードの内容を拡大解釈しない
- 無理にグルーピングしない
- みんなの意見が一致しないものはグループにいない

- 同じものがないものは1枚のまま置いておく
- 大分類、中分類、小分類の枠をマジックで書き込む
- カードの内容を発表しあい、似た内容のカードをシマにしていく
- タイトルをシマにつける
- シマとシマの関係を矢印で示す

- * アイデアをかきとめることができる
- * 動かせる
- * 新しい切り口でグルーピングができる
- * 光カード(どこか言葉やアイデアが面白いカード)を中心にまとめることができる

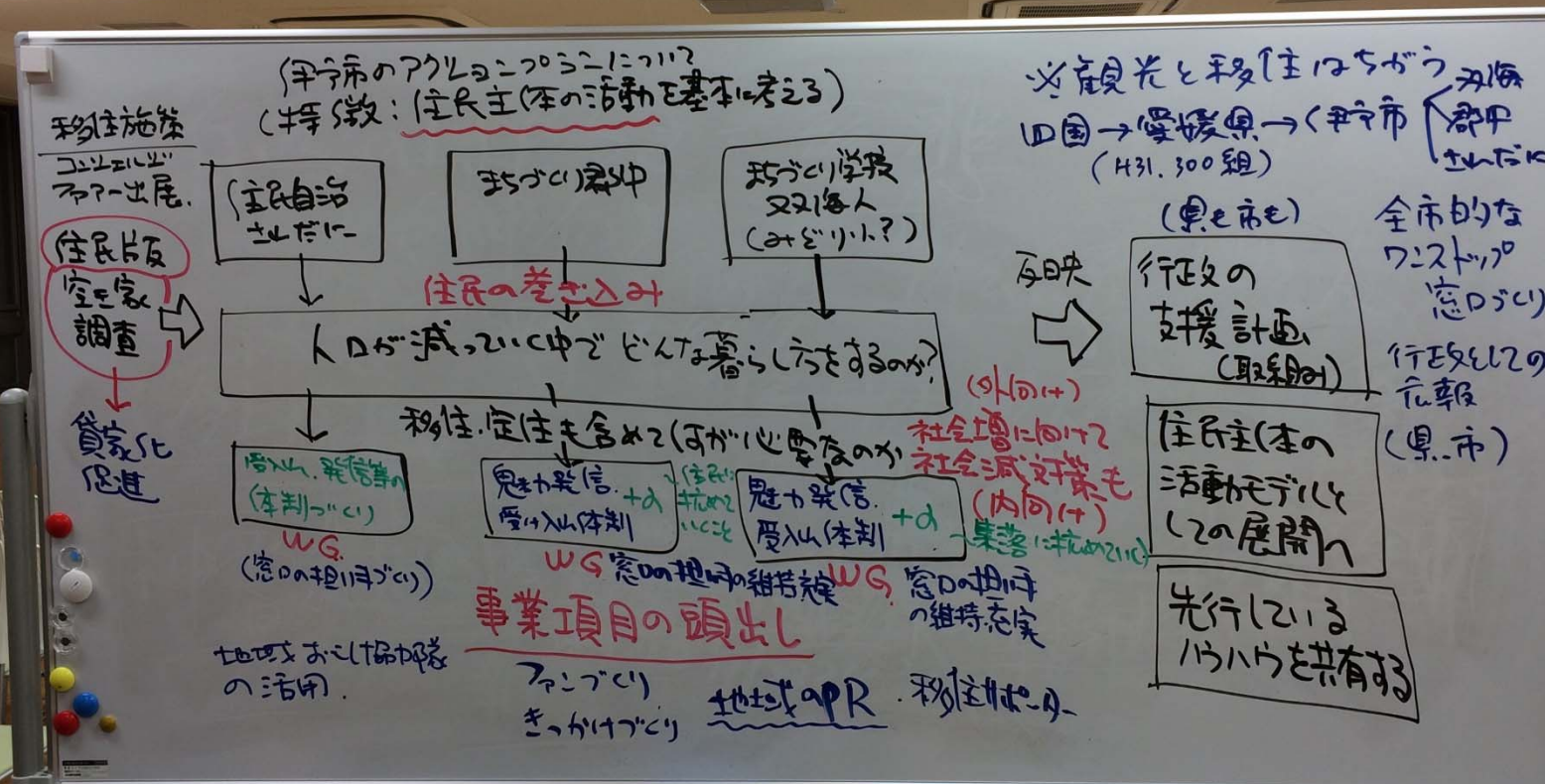


話し合いの技法(1)

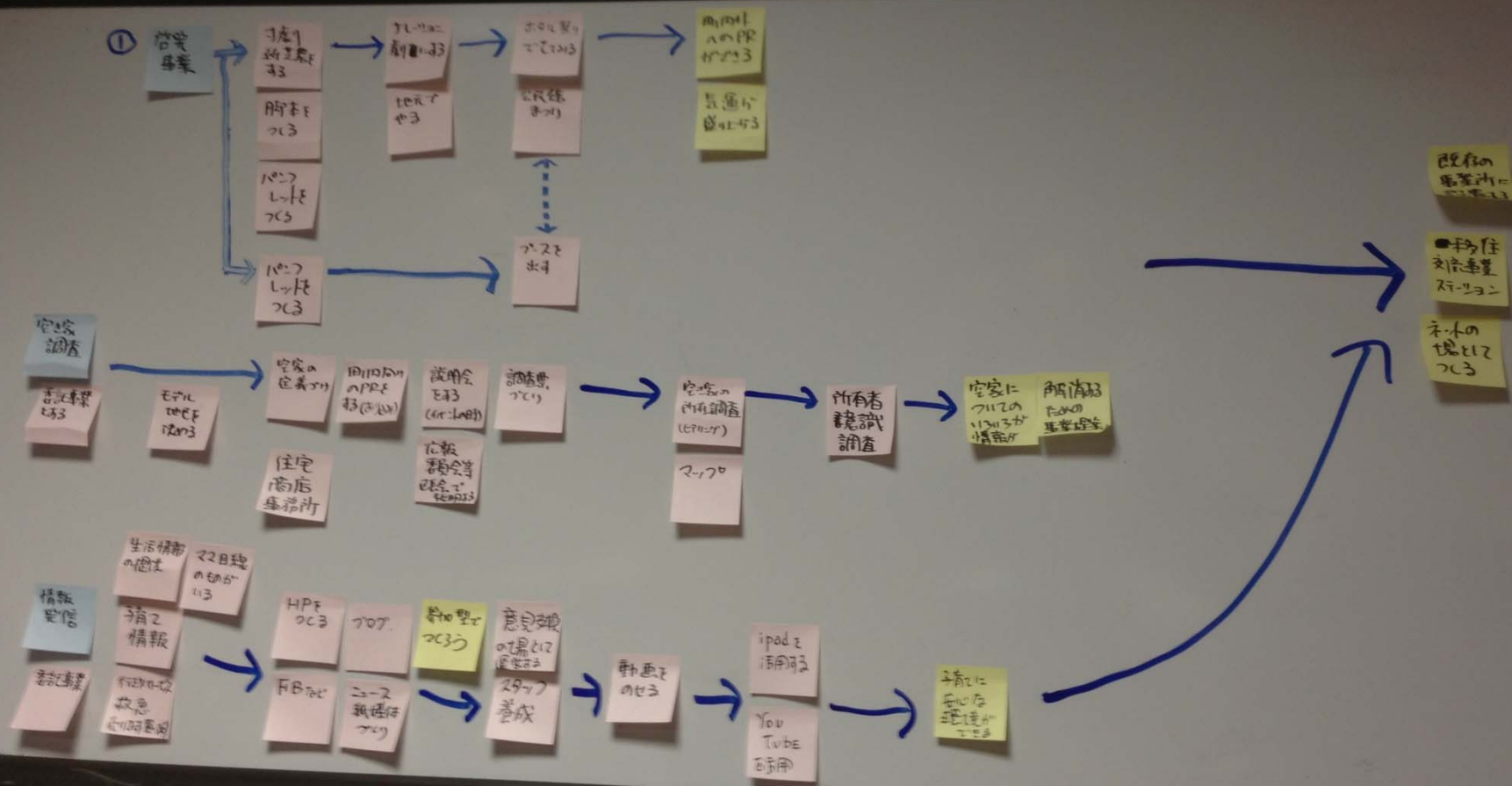
- **ファシリテーショングラフィック(板書)**
 - ミーティングの達成目標の明確化
 - アジェンダ(進行予定表)の明示
議論の順序や時間配分
 - ファシリテーター(進行役)が言語やグラフィックを併用してすべての意見を、ホワイトボード等に記録していく

- ミーティングのプロセスのすべての部分を明らかにする
- 視覚を通して活発な情報交換を促し、議論を活性化する
- 効率よく議論を進行する
- 意見やアイデアを個人の感情レベルから離れて扱うことができる
- ミーティングの達成目標は現実的なものとする
- 話しやすい雰囲気とする
 - （参加者の人数、グループ分け、記録する壁の位置、椅子の配置など）
- マーカー等の色を有効に活用する

グラフィックファシリテーションの例(1)



ファシリテーショングラフィックの例(2)



課題解決に向けた企画づくりのポイント

企画の背景 **WHY** なぜこの企画を

企画の主体と対象 **WHO & WHOM**

誰が誰を相手に

企画の内容 **WHAT** どんな中身で

企画の方法 **HOW** どんなやり方で

企画の時機と時期 **WHEN** いつ

いつからいつまでやるのか

企画の予算 **HOW MUCH** いくらか